

# 地 域 再 生 計 画

## 1. 地域再生計画の名称

飯田市上村緑の回廊計画

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

- ・長野県
- ・飯田市

## 3. 地域再生計画の区域

飯田市の区域の一部（上村地区）

## 4. 地域再生計画の目標

飯田市は、日本のほぼ中央に位置し長野県の最南端、いわゆる伊那谷における中心都市である。人口は 107,000 人、面積 658.76 平方キロメートルである。飯田市の東部に位置する上村地区は 98%が山林原野で、東は静岡県静岡市に南アルプス兎岳・大沢岳で接し、西は伊那山脈に接している。

上村地区の最北端を源に流れ下る上村川は、地区の中央部を南北に縦断する中央構造線沿いに東西両岸の支流を合わせながら南下するが、伊那山脈は特に陰阻な溪谷をなしており地形は極めて厳しいため、この谷間は遠山谷と呼ばれてきた。

地区の東側は南アルプスの前衛の山塊地帯で、変化に富んだ地形で植生も豊富であり、随所に風光明媚な高原や池などがある。

現在この地形を生かした都市部住民との交流を地区の地域振興の柱に据えている。

特に「耕して天にいたる」と称される山間急傾斜地の農地、南アルプス、中央アルプスを一望する標高 1,900mの「しらびそ高原」、「重要無形民俗文化財」に指定されている「霜月祭り」など、地区の豊かな自然と伝統文化を活かした観光は好評を博している。

これらの地には、公的施設として 80 名利用可能な宿泊施設「ハイランドしらびそ」、日本のチロルと称される標高 1,000mの「下栗の里」には、農産物直売所として「はんば亭」、宿泊施設として「高原ロッジ下栗」、農業体験施設として「天耕の家」、また上村川の上流部に「大島河原オートキャンプ場」をおのおの整備した。

さらに民活として「下栗の里」は国道 152 号から南アルプスの登山口である便ヶ島の中間に位置し、地域住民が「民宿」を整備し、自家製農産物を利用した郷土料理にリビ

ーターが着実に増えている。

さらに平成7年に開通した三遠南信自動車道矢筈トンネルや、国道152号の改良促進により「しらびそ高原」に年間10万人、「下栗の里」に年間3万人の都市住民が訪れるようになった。

また新たな観光資源として平成15年には、以前から調査研究が行われていた国内初隕石クレーターが新聞報道され益々観光振興が地区の柱となってきている。

しかし、それぞれの観光施設を結びつけている市道・林道は狭隘でかつ落石等の課題も多く、地域住民はもとより都市部住民からも道路整備を強く要望されているのが実情である。

本計画で予定されている市道・林道は、およそ2時間で旧上村内を周遊できる道路で、かつ森の中を走っている道路から「緑の回廊」として命名したが、これらの道整備を図ることが観光振興には必要不可欠となっている。

また、これらの市道・林道整備は、山林の景観林・国土保全林を整備するために必要なものであり、この整備により「緑の回廊」を適切に管理・保全していくことともなる。

これら豊かな大自然と、霜月祭りなどの伝統文化、素朴な人情と郷土料理を活かした観光事業の振興を図るためには、誰もが安全・安心に走ることが出来る道路は絶対に必要であり都市部住民との交流を今まで以上に図るためにも本計画を実施する。

(目標1) 国道152号から「しらびそ高原」までの所要時間60分を45分に短縮する。

(目標2) 「しらびそ高原」から「日本のチロル下栗の里」までの所要時間50分を40分に短縮する。

(目標3) 「日本のチロル下栗の里」から国道152号までの所要時間30分を25分に短縮する。

(目標4) 国道152号から南アルプス登山口までの所要時間70分を60分に短縮する。

## 5. 目標を達成するために行う事業

### (5-1) 全体の概要

市道上村1号線の改良については、国道側を県代行事業で、しらびそ高原側を単独事業で、またその他の市道上村3号線も単独事業で実施する予定である。

さらに林道改良事業については、御池山線、赤石線とも間接補助事業として実施する計画である。

これらの整備により、各観光施設を短時間で結びつけることが可能となり、新たな交流人口の増加が見込まれ各種催しも増え、かつ国内初と言われる隕石クレーターの保存も容易となる。

(5-2) 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

道路整備交付金を活用する事業

[施設の種類(事業区域)、実施主体]

- ・市道(飯田市) 長野県、飯田市(路線認定済)
- ・林道(飯田市) 飯田市(地域森林計画記載済)

[事業実施期間]

- ・市道(平成17年度~21年度)、林道(平成17年度~21年度)

[整備量及び事業費]

- ・市道 0.21 km(県代行事業分)
- ・市道 4.8 km, 林道 1.58 km
- ・総事業費 836,800 千円
  - 市道(県代行) 410,800 千円(うち交付金 205,400 千円)
  - 市道(市) 264,000 千円(うち交付金 132,000 千円)
  - 林道(市) 162,000 千円(うち交付金 81,000 千円)

(5-3) その他の事業

・林道御池山線沿線に日本初の隕石クレーターの文化的遺産としての保存活用が可能となる。

・「日本のチロル」「日本の原風景を今に残す里」と呼ばれている「下栗の里」には、地元住民との交流を深く結びつけるため、畑付のクラインガルテンを5棟整備し、地元住民が講師となり農業体験が行われている。

またソフト事業として、「はんば亭」の広場を主会場に、観光シーズンにはコンサート、「ふれあい祭り」などの各種催しが行われており、交流が着実に実を結びつつあり、今後の発展も大いに期待できる。

6. 計画期間

平成17年度~21年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

- ・4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い状況を把握・公表するとともに、関係行政機関と地元住民からなる「地域再生協議会(仮称)」を開催

し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行うこととする。

8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし